

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

言語教育センター

部局長名：

栗原 考次

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域 ①-1 目標 1. 英語系では、60分授業・クォーター制が導入される平成28年度に向けたカリキュラム改定作業を行い、「総合英語1～5」を「総合英語1～6」に変更する。 2. 英語系では、4月と12月の全学統一TOEIC-IPテストのデータを用いて、「総合英語」の教育効果について分析し、その結果を基に、授業内容や教育方法の改善を図る。 3. 英語系では、1・2年次の英語科目が8コマから6コマに減る平成28年度からの新カリキュラムにおいて、教育効果の向上を図るため、英語教育FD作業部会が中心となり、新設科目のためのFD研修を企画・実施する。 4. 英語系では、平成27年度からのグローバル人材育成特別コース定員の倍増(50名から100名)に対応した授業時間割を作成しているが、平成27年度の授業の実施状況を基に、平成28年度に向けた授業時間割の見直しを図る。 5. L-caféでは、学生の語学力の向上と異文化への理解を促すため、正課外学習の場としてのカフェ活動の充実を図る。 6. 初修外国語系では、平成28年度に向けたカリキュラム改定作業を行う。 7. 初修外国語系では、海外の協定校との相互的な学生交流プログラムを実施すると共にカフェ活動によって正課外学習の場の充実を図る。 8. 初修外国語系では、学生の履修状況を調査・検討の上、授業体制や授業方法の改善を図る。 9. 日本語系では、日本語コースについて昨年度検討を行った結果を基に、平成28年度に向けたカリキュラム改定作業を行う。	自己評価 1. 英語系では、60分授業・4学期制に対応したカリキュラム改訂を行った。(履修の手引) 2. 英語系では、4月と12月の全学統一TOEIC-IPのデータを用いて、「総合英語」の教育効果について分析し、年報に報告した。分析結果を基に検討し、授業内容や教育方法の改善を図った。 3. 英語系では、平成28年度からの新カリキュラムにおいて教育効果の向上を図るため、FDワークショップを7月と11月に実施し、効果的な4技能の教授法について意見交換し、理解を深めた。その他に、My ShareとReading Groupを各1回開催し、教授法について情報共有を図った。(年報) 4. 英語系では、平成28年度のグローバル人材育成特別コースのカリキュラムに合わせて、授業時間割を見直した。 5. L-caféでは、学生の語学力の向上と異文化への理解を促すため、正課外学習の場としてのカフェ活動の充実を図った。イングリッシュ・カフェ活動を平日毎日行った。英語試験対策の改善を行うことにより、学生の満足度が上がった。初修外国語カフェのうち、フランス語と中国語で週1回L-caféスペースを活用した。(年報) 6. 初修外国語系では、平成28年度からの60分授業・4学期制のカリキュラムに対応して開講コマや時間割など授業体制全般の改訂を行った。あわせて初級・中級各授業の学習目標・達成目標の全面改訂を行い、平成28年度用シラバスにも明記した。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 7. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラムの実施及びドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の各「カフェ」の活動。	7. 初修外国語系では、7月27日～8月8日に第5回上海理工大学交流プログラムを開催し、同大学から12名の研修生を受け入れ、3月14日～26日には8名の本学学生を同大学での中国語研修に派遣、引率した。また、キャンパス・アジア事業の一環として、8月3日～21日開催の成均館大学校夏期韓国語研修に12名の本学学生を派遣、引率し、2月1日～20日には第10回成均館大学校交流プログラムを開催して同大学校から12名の研修生を受け入れた。本年度から新たに実施したルール大学ポーフム夏期ドイツ語研修では、8月31日～9月25日の期間本学学生5名を派遣した。またドイツ語、フランス語、韓国語の各語学カフェについては週1回、中国語カフェは週2回開催し、留学生との交流や外国語実践の場を定着させた。(年報)
②研究領域 ②-1 目標 1. 英語系では、4技能の授業に関連する内容的及び方法論的研究を進める。 2. 初修外国語系では、各語種共通の教授法改善に関する研究、それぞれの言語文化圏に関する研究を進める。 3. 日本語系では、日本語教育及び日本語に関する研究を行い、その結果を論文及び発表の形で公開する。	自己評価 1. 英語系では、カリキュラム開発経費の交付を受けて28年度以降の新カリキュラムの授業に関連する教授法研究を行った。 2. 初修外国語系では、カリキュラム開発経費の交付を受けて28年度以降の新カリキュラムの授業に対応する教材の研究・開発を行った。またそれぞれの言語文化圏に関する論文公刊や研究発表などを行った。 3. 日本語系では、論文等の出版、研究発表を合わせて9件(一人平均2.3件)行った。(添付資料)
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 3. 日本語系では論文・著書等の出版または学会での研究発表数を一人平均1件以上行う。	
③社会貢献(診療を含む)領域 ③-1 目標 1. 外国語の学習を通して人と文化についての理解を深めるという観点から	自己評価 1. ①英語系では、特別公開講座を3回、公開講座を1回、初修外国語系では、特別公開講座を2回、日本語系では、特別公開講座を2回開催した。(年報) ②初修外国語系では、フランス語技能検定試験(仏検)春季1次試験および2次口述試験、ドイツ語検定試験(独検)秋季試験の岡山会場責任者を務めた。 2. 英語系では高校生のための大学講座及びイングリッシュ・オン・キャンパスを実施した。 3. 日本語系では、日本語教育副専攻コースに7名の社会人を受け入れた。(年報)
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 1. ①日本語系では特別公開講座を年2回実施する。	
④センター業務 ④-1 目標 共通外国語教育の立案・実施・改善に責任を持ち、全体的な観点から以下の業務を主体的に進める。 1. 共通外国語教育(大学院を含む)及び留学生のための日本語教育の実施計画策定とその遂行 2. 外国語教育FD活動の実施 3. 国際交流・連携事業の実施 4. L-café、語学演習室及び関連施設の管理・運営 5. 言語・外国語文化に関する、地域社会との連携事業の実施 6. 本学における外国語教育実施状況とその成果の広報 7. 外国語教授法研究・異文化研究の推進と支援	自己評価 1. 社会文化科学研究科共通科目として「基礎ドイツ語1, 2」、「Writing with discussion」、「Presentation skills」等を開講した。 2. 英語系ではFDワークショップを2回実施した。(年報) 3. 協定校(成均館大学校、上海理工大学)との相互交流プログラム、及びルール大学ポーフム夏期ドイツ語研修を実施した。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	

【総括記述欄】

※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。

管理・運営面において、言語教育センター教員は、様々な作業部会・委員会・活動において協力して業務を遂行し、各系は、平成28年度からの60分授業・4学期制に対応させるためのカリキュラム改訂を無事に完了することができた。しかしながら、90分授業が120分(60分×2)授業になること及び4学期制導入に伴い、現行時間割が大きく変化するため、平成28年度の時間割編成において、教員確保が大きな問題となった。英語では特に1年次必修の木曜日開講の「英語コミュニケーション3」が第2学期と第3学期のみの開講ということで、他大学の時間割との不整合のため都合がつかないという非常勤講師が少なくなかった。さらに、平成29年度に開講となる2年次必修の「英語コミュニケーション4」は、2年次第2学期に必修科目を開講しないという取り決めのため、2年次第1学期のみ週2回集中開講される科目となり、担当教員の調整に一層の困難が予想される。また、新カリキュラムでは学生の能動的な授業参加が一層推進されるが、学生のアクティブな学習を推進するための質の高い授業の実現や信頼性と妥当性の高い評価方法などについてさらなる検討が求められる。また、可動式の机やパソコン教室の確保など施設面でアクティブラーニングを支える環境の充実も一層求められる。